

令和2年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

【4:そう思う 3:ややそう思う 2:あまりそう思わない 1:そう思わない】

* () 内は保護者アンケートの番号

回収率	職員	: 26/26	100%
	保護者	: 53/56	95%

分野	番号	具体的な評価項目	職員				保護者			
			小学部	中学部	高等部	全体	小学部	中学部	高等部	全体
学校経営	1 (1)	学校は、学校の使命や校訓、学校教育目標などを踏まえて学校経営目標を設定している。 今後の方向性 ○これからの本校があるべき姿を長期的な視点で見つめ、伝統を重んじつつも改善すべきところは真摯に見直しながら目標を設定する。	3.8	3.8	3.6	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7
	2 (2)	学校は、学校経営目標や実情、ニーズなどを踏まえて本年度努力目標を設定している。 今後の方向性 ○ボトムアップとトップダウンの両方の視点を合わせながら、具体的で分かりやすい目標を今後も設定していく。	3.4	3.6	3.6	3.5	3.8	3.8	3.6	3.7
	3 (3)	部は、学校経営目標や本年度努力目標、部の実態などを踏まえて部経営方針を設定し、部の運営を行っている。 今後の方向性 ○児童生徒の実態を的確に捉えて、「意欲づくり」「基盤づくり」「主体づくり」の繋がりを柱としながら各部の運営を行う。	3.6	3.8	3.6	3.6	3.9	3.8	3.6	3.7
	4 (4)	学級は、学校経営目標や本年度努力目標、部経営方針、学級の実態などを踏まえて学級経営方針を設定し、学級の運営を行っている。 今後の方向性 ○学級ごとに、明確な学級経営方針や重点目標を示し、副担任等と連携して学級運営を行う。	3.3	3.8	3.4	3.5	3.8	3.8	3.7	3.8
組織運営	5	学校は、効果的・効率的に業務が遂行できるように校務分掌を組織している。 今後の方向性 ○分掌部や部員の数を大きく変更することは難しいが、業務内容に応じた人数配置を検討する。	3.3	3.3	3.2	3.3				
	6	分掌部は、学校経営目標や本年度努力目標、学校の実情などを踏まえて分掌部方針を設定し、分掌部の運営を行っている。 今後の方向性 ○年度初めに各分掌部の重点目標を設定し分掌業務に取り組む。また、学期ごとに行う反省の内容を十分吟味して次年度の計画に反映させていく。	3.4	3.5	3.6	3.5				
	7	学校は、目的に応じた委員会を設置し、適切に運営している。 今後の方向性 ○検討する内容が明確で、機能的な委員会となるように次年度改善する。また、会議等については、メールや文書での回覧等を活用し、必要最小限度となるように改善する。	3.4	3.1	3.2	3.3				
	8	学校は、計画的に定時退庁日を設定している。 今後の方向性 ○全校統一した定時退庁日の設定は難しいので、学部ごとの定時退庁日を確実に設定し実行する。	2.8	2.4	2.1	2.4				
	9	学校は、文書や金銭等の管理や処理を適切に行っている。 今後の方向性 ○今後も個人情報の漏洩や不適切な処理がないように万全を期す。	3.6	3.3	3.2	3.3				

令和2年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

分野	番号	具体的な評価項目	職員				保護者			
			小学部	中学部	高等部	全体	小学部	中学部	高等部	全体
危機管理	10 (5)	学校は、避難訓練などを通して、児童生徒の安全・防災に関する指導を適切に行っている。 今後の方向性 ○避難訓練は様々な状況を想定しながら計画し、万が一の場合に対応できるようにする。	3.6	3.8	3.4	3.6	4.0	3.9	3.8	3.9
	11 (6)	学校は、危機管理マニュアルを整備するとともに、必要に応じて見直しを行っている。 今後の方向性 ○火災、地震、不審者、行方不明、性被害に関しては細かな記載があるが、食中毒やアレルギー、大きなけがや感染症等は重大事故の項目にひとまとめにして記載されているので、できるだけ細分化して分かりやすく記載していく。また、本校に必要な内容（大雨や事後の対応）については、他校のマニュアルも参考にしながら追記する。	3.4	3.5	3.2	3.4	3.9	3.9	3.6	3.8
	12 (7)	学校は、災害への備えとして、計画的に備蓄品を準備している。 今後の方向性 ○現在学校には水と非常食が50食ほどあるが、今年度よりそれぞれの児童生徒にあった非常食を家庭で準備してもらうようにした。今後は、非常用簡易トイレなどの整備を検討していく。	3.7	3.5	3.3	3.5	4.0	3.9	3.7	3.8
	13 (8)	学校は、事故やヒヤリハットが起きた際には情報を共有し、再発防止に努めている。 今後の方向性 ○昨年度と比べて事案は減っている。今後もヒヤリハット事案が起きた際は迅速に部主事に報告して速やかに共有し再発防止に努める。	3.6	3.4	3.2	3.4	3.9	3.8	3.6	3.7
教育活動	14 (9)	学校は、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階並びに学校や地域の実態等を十分考慮して、適切な教育課程を編成している。 今後の方向性 ○カリキュラム・マネジメントの確立を目指し、教育活動の評価改善ができるようにする。誰がいつ何をするかを明確にしていく。	3.1	3.1	3.1	3.1	3.9	3.7	3.4	3.6
	15 (10)	学校は、教育課程に基づいて適切に教育活動を実践している。 今後の方向性 ○教育課程は実践しながら改善していくものなので、変更は記録に残したり部会で共有したりし、教育課程委員会を軸にして変更・改善した点を次年度に生かしていく。	3.2	3.4	3.4	3.3	3.9	3.6	3.7	3.7
	16 (11)	学校は、前年度の反省を生かして、学校行事の時期や回数、内容などを設定している。 今後の方向性 ○新型コロナウイルス感染症対策で、行事を精選したり運営方法を変更したりした。学校全体で行うべきものと学部や学級単位で行っても成立するもの、内容を精選し時間短縮ができるものなど、多くの気づきがあり見直すきっかけになった。次年度の教育活動に生かしたい。	3.3	3.5	3.4	3.4	3.6	3.7	3.5	3.6
	17 (12)	学校は、個別の指導計画を作成し、児童生徒の特性などに配慮しながら個に応じた指導を行っている。 今後の方向性 ○次年度から長崎県教育委員会の様式を基に取り組むので、目標設定の手順や評価方法を共通理解して取り組む。	3.3	3.4	3.2	3.3	3.9	3.8	3.7	3.8
	18 (13)	学校は、日々の指導の中で、道徳教育に関する指導を適切に行っている。 今後の方向性 ○今後は日々の教育活動に道徳的実践力の育成を意識的に入れる努力をする。	3.0	3.3	3.1	3.1	3.7	3.8	3.5	3.7

令和2年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

分野	番号	具体的な評価項目	職員				保護者			
			小学部	中学部	高等部	全体	小学部	中学部	高等部	全体
教育活動	19 (14)	学校は、児童生徒の実態を的確に把握し、必要な指導を計画的に行っている。 今後の方向性 ○今年度から、各教科と自立活動の実態把握のツールの活用を開始した。年度初めに実態把握の時期や方法について、共通理解する時間を設定する。	3.2	3.4	3.2	3.3	3.8	3.7	3.6	3.7
	20 (15)	学校は、キャリア教育全体計画を意識しながら日々の指導を行っている。 今後の方向性 ○次年度から開始する「キャリアパスポート」の作成を通して、実践をしたりキャリア教育全体計画の見直しをしたりする。	2.7	3.0	3.2	3.0	3.7	3.6	3.6	3.6
	21 (16)	学校は、「体罰」や「不適切な言動」によらない指導を行っている。 今後の方向性 ○教員が、普段何気なく使っている言葉が生活年齢に応じたものか、生徒を傷つけていないかなど常に自分の言動を振り返るような機会（コンプライアンスチェック）を作ったり、互いに注意しあったりできる職場の雰囲気づくりに努める。	3.2	3.5	3.6	3.4	3.9	3.9	3.7	3.8
	22 (17)	学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行っている。 今後の方向性 ○単元計画シート内に、「主体性・対話的で深い学び」について項目をあげ、より意識した授業ができるようにする。	3.1	3.3	3.2	3.2	3.7	3.9	3.5	3.7
	23 (18)	学校は、学習内容や教材を工夫しながら指導を行っている。 今後の方向性 ○今後も各部の学習に必要な教材等は事務室と相談しながら充実させ効果的な指導に心掛ける。	3.7	3.8	3.6	3.7	3.9	3.8	3.4	3.7
	24 (19)	学校は、進路実現に向けて現場実習や進路に関する学習を適切に行っている。 今後の方向性 ○教育課程や学校行事にも関連してくるので、今後各部から具体的ニーズを把握していく。	3.7	3.5	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7
	25 (20)	学校は、進路実現ができるように自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている。 今後の方向性 ○授業の在り方を模索しながら進路相談や進路希望調査を活用して指導を行う。	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7
	26 (21)	学校は、卒業後の生活が豊かになるように、体験学習などを適切に実施している。 今後の方向性 ○体験学習の目的や内容、方法を今一度見直し、児童生徒の学びの充実にどのような学習が最適かを各部で検討する。	3.3	3.3	3.3	3.3	3.7	3.5	3.3	3.5
	27 (22)	学校は、生活年齢等に応じて、保健指導を適切に行っている。 今後の方向性 ○検診時や保健の授業の中だけでなく、日常生活場面においても実態に応じた指導を適切に行っていく。また、体の学習については、保健体育の授業の中に位置付けて指導を行っていく。	3.2	3.5	3.6	3.4	3.9	3.8	3.7	3.8
	28 (23)	学校は、共生社会の実現に向けて、交流及び共同学習を計画し、学校間交流や居住地校交流を適切に実施している。 今後の方向性 ○今年度は附小、附中との交流がコロナ禍で難しかった。今後は、感染症など厳しい状況も考え、内容や方法を工夫して行っていく。また、地域との交流などの充実も図っていく。	3.2	2.7	3.0	3.0	3.8	3.5	3.5	3.6

令和2年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

分野	番号	具体的な評価項目	職員				保護者			
			小学部	中学部	高等部	全体	小学部	中学部	高等部	全体
教育環境	29 (24)	学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している。	3.1	3.3	3.1	3.2	3.9	3.7	3.4	3.6
		今後の方向性	○限られた予算の中で優先順位を的確に判断して整備すると同時に、児童生徒の安全・健康面に関することは最優先で対応していく。							
	30 (25)	学校は、施設・設備の安全点検を定期的実施し、問題点があれば早急に対応している。	3.4	3.8	3.3	3.5	3.8	3.8	3.7	3.8
		今後の方向性	○学期ごとの安全点検を継続実施し、不具合がある場合は速やかに事務室と相談し対応していく。							
教育環境	31 (26)	学校は、校舎内外の美化に努めている。	3.3	3.6	3.4	3.5	3.9	3.8	3.7	3.8
		今後の方向性	○今後も定期的な職員作業を計画しながら環境整備に努める。							
	32 (27)	学校は、校内の掲示を工夫して行っている。	3.4	3.4	3.4	3.4	3.9	3.7	3.7	3.7
		今後の方向性	○校内掲示は、各部や担当で定期的に行っている。レイアウトや見出しなど注目してもらえる工夫など施していく。							
専門性の向上	33	学校は、研修会に参加したり研修を行ったりするなど、新学習指導要領の理解を促す取組を行っている。	3.1	3.3	3.2	3.2				
		今後の方向性	○来年度、リモート研修会への参加を促すようにして、研修案内を充実する。公開セミナー、公開研では外部講師を招く予定である。							
	34	学校は、カリキュラム・マネジメントの確立に向けて調査・研究を行っている。	2.9	3.1	3.0	3.0				
		今後の方向性	○第24次研究を進めていく。また、他の分掌部との連携もより具体的にしていく。							
	35	学校は、人権に関する研修を適切に実施している。	3.4	3.1	2.9	3.2				
		今後の方向性	○人権担当を中心に、年に1回研修を行っている。今年はDVD視聴という形での研修だったが、次年度は講師を招いての研修も検討している。普段から人権について考える機会がもてるよう啓発活動（口頭、メール、回覧での情報のお知らせ等）を行っていく。							
	36	学校は、福祉制度などに関する研修を実施して職員の理解を深めている。	3.0	2.8	2.7	2.8				
		今後の方向性	○保護者の研修については、従来通りの進路講話研修会を計画する。職員については、研究部等と協議して福祉制度に関する研修を計画していく。							
37	学校は、教員として必要な研修（現職教育）を計画的に実施している。	3.0	2.8	2.8	2.8					
	今後の方向性	○来年度は、年間研修計画を作成する。								
38	学校は、授業研究などを通して授業力の向上に努めている。	3.2	3.0	3.0	3.1					
	今後の方向性	○第24次研究では、授業研究を行う予定である。								

令和2年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

分野	番号	具体的な評価項目	職員				保護者			
			小学部	中学部	高等部	全体	小学部	中学部	高等部	全体
専門性の向上	39	学校は、効果的な教育実地研究の実施に向けて、課題の分析と改善を行っている。	3.4	3.0	3.1	3.2	/	/	/	/
		今後の方向性	○大学で対面での授業が実施されず、学生の生活が大きく変化している。参加観察や事前指導では無断欠席、遅刻などが増え、今までは当たり前に行っていたことができていない状況である。今まで以上に学生の実態に配慮しながら丁寧に指導していく。							
専門性の向上	40	教員は、教育センターの研修講座や各種研修会に参加し、専門性の向上に努めている。	2.8	2.9	2.7	2.8	/	/	/	/
		今後の方向性	○少しでも研修会に参加しやすい体制作りについて検討していきたい。							
開かれた学校	41 (28)	学校は、教職員や保護者等に対して学校経営方針を明確に示している。	3.4	3.8	3.4	3.5	3.8	3.8	3.5	3.7
		今後の方向性	○学校経営については年度初めに説明するとともに、学校だよりを毎月1回発行し、随時学校の現状を伝えていく。							
	42 (29)	学校は、教育相談やのびのび教室を通して、地域の特別支援教育に関するセンターとしての役割を果たしている。	3.3	3.1	3.3	3.3	4.0	3.7	3.5	3.7
		今後の方向性	○コロナウィルス感染拡大の対策として、1・3学期は、教室の開催を中止とした。開催した夏季休業中と2学期は参加者数も定員を超える人数であったため、ニーズの高さは伺える。来年度も、コロナウィルス感染拡大の状況を把握しながら、その対策（参加人数の縮小：現行6名→4名など）を考えながら、参加者のニーズに応じた教育相談活動やのびのび教室の開催を行う。							
	43 (30)	学校は、ホームページや学校だよりを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している。	3.8	3.6	3.4	3.6	3.9	3.6	3.5	3.7
		今後の方向性	○学部によってホームページの更新状況は異なるが、可能な限り新しい情報を発信していく。							
	44 (31)	学校は、連絡帳や電話、一斉メールなどで、必要な情報を素早く保護者に伝えている。	3.8	3.8	3.6	3.7	4.0	3.8	3.9	3.9
		今後の方向性	○一斉メールについては、緊急時のみならず、修学旅行時の様子など、様々な情報の提供手段として今後も有効に活用していく。							
	45 (32)	学校は、関係者や地域に対する学校公開を適切に実施している。	3.6	3.6	3.4	3.5	3.9	3.8	3.7	3.8
		今後の方向性	○コロナウィルス感染拡大に対する対策を講じながら、教務部と協同しながら企画運営を行った。受付、参観方法、説明会のもち方など、いろいろな視点から対策を考え、次年度以降も対応を工夫していきたい。							
46 (33)	教職員は、保護者からの相談に対し、誠意をもって丁寧に対応している。	3.8	3.8	3.6	3.7	3.8	3.9	3.7	3.8	
	今後の方向性	○家庭との連携があるからこそ児童生徒は成長する。今後も、保護者との情報共有を大切にしていく。								
47 (34)	教職員は、保護者や学校関係者に対し、「すみれ運動（スマイル・身だしなみ・礼儀）」を意識し、丁寧に対応している。	3.6	3.8	3.4	3.6	3.9	3.8	3.7	3.8	
	今後の方向性	○今後も、学校での児童生徒の様子を家庭には正確に伝え、連携を大切にしていく。また、職員一人一人が、誰に対しても真摯で謙虚な姿勢であることを忘れないように管理職自らが実践していく。								